

黄昏の楽園

タツガレノラクエン



黄昏の楽園



ミ●ナ編

「このワタシとおま●こしたいって？
それはまた随分と物好きな奴だな…
そうだな…オマエがワタシのしもべに
なるのなら考えてやるよ♪」

「…って即答かよ♪
いいよこっちに来な…♡」



「バーカ何期待してるんだよ
オマエはこれ(髪)で十分だよ」

「まあオカズがないのも
寂しいか…大サービスだ
ミ●ナ様のおま●こ●
見せてやるよ♥」

「しっかり目に焼き付けて
オナネタにするんだな♥」

フッフ♥

フッフ♥

くぱ
本♥

ニコ

ニコ
ニコ
ニコ

△

ニ

ん
ん
ん

ニコ

△

「ほら今度は口でしてやるよ」

「決まってるだろフェラだよ♡」

「オマエ…」

「ち●ぽ洗ってないな…」

「酷いニオイだぞ…」」

（きたきたー♡）

悪臭クサち●ぽ♡

久々に濃厚な

チンカスチーズが

食べれるよ♡）

「…しようがない一度言った事だし」

ワタシの口でオマエの汚ち●ぽ

綺麗にしてやるよ♡」

ちゅ♡

ほ♡



(すごッ♥ち●ぽに

チンカスがびっしり♥

一週間は洗ってないな♥)

んっぽ♥

んっぽ♥

(すごいニオイ…

癖になるううう♥)

ブホッ♥

ブホッ♥

ブホッ♥

ブホッ♥

(なんて量のザー汁だ♥

こいつ…相当

溜め込んでたな…♥)

んっぽ♥

んっぽ♥

んっぽ♥

(特濃ザー汁うまッ♥)

ブホッ♥

ブホッ♥

「ほらほら 念願の

尻コキだよ♥」

「毎日ワタシの尻コキ

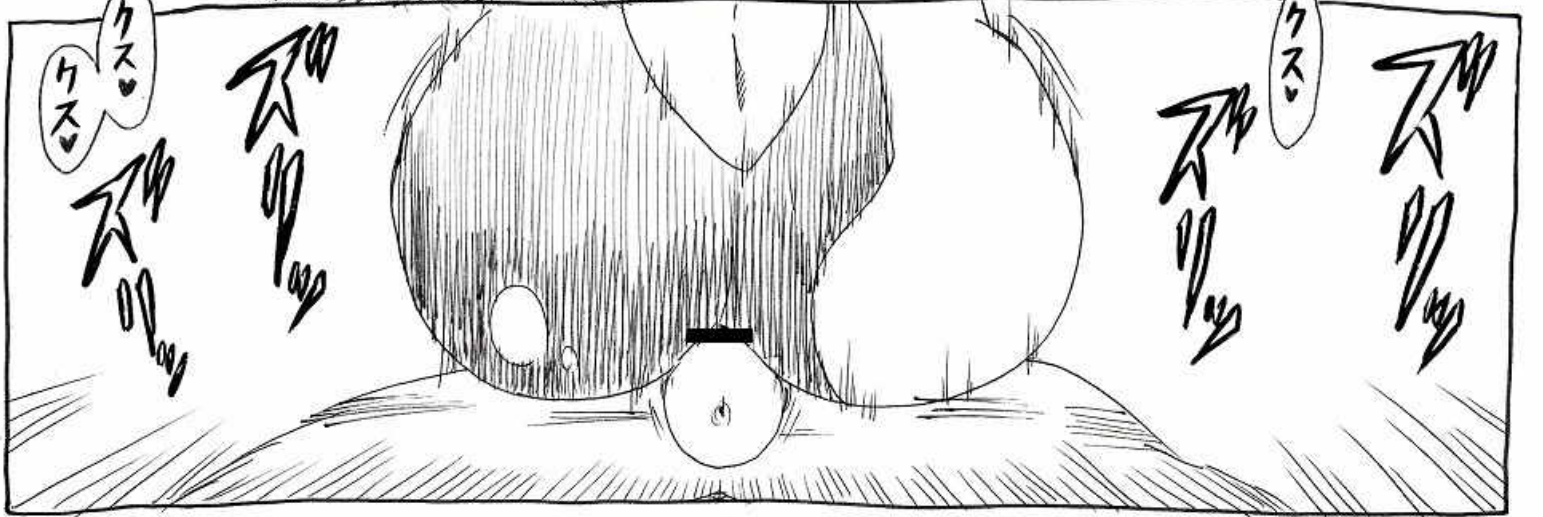
妄想してシコってた？

ったくどうしようもない

ヘンタイ野郎だな…♥」

「ほーらワタシの尻で

ズリコキしてやるよ♥」



「それじゃあ
そろそろ…
入れてやるか♥」

「ほら横になりな
ワタシが上だよ♥」

フフ♥

フフ

くほ
♡♡♡

「ミ●ナ様の

お・ま・●・こ

た〜っぷり

味合わせてやるよ♥



「どうだ？」

「ミ●ナ様のおま●こは？」

「最高だろ？」

「いいんだよイきたかったら
我慢しなくたって……」

「え？」

自分で

動きたい？

しもべのくせに

生意気だな……」

「まあいいだろう

ならオマエがリードして

ワタシを満足させてみな♡

まあムリだろうけどな……♡」



ん……♡

はぁ♡

フッポ♡

フッポ♡

あ……♡

はぁ♡

フッポ♡

フッポ♡

「おッ オマエなかなかやるじゃないかッ♥」

「しっかりワタシの気持ち良いトコを突いてくるなんてッ♥」

「でも無理やり犯されてる

みたいな力任せのプレイも

嫌いじゃないぞ…♥」



おほッ♥

おほッ♥

おほッ♥

激しいッ♥

ズン

ズン

ズン

ズン

「オ：オマエ遠慮つてもものを
知らないのか：サルみたいに
腰振り続けやがって：♥」

「しもべの分際で

中出ししまくって：♥」

「見ろよ中からまだこんな

オマエのザー汁出てくるぞ：♥」



「ほーらほら♥

柔らかくてすべすべの
ミ●ナ様のほっぺ♥
気持ち良いだろ?」

「なあまだワタシとおま●こ
したいだろ? そうだろ?
オマエがどうしてもって
言うんならワタシのケツ穴
使ってもいいんだぞ♥」

「きつつきつの
ケツ穴ま●こに
ぶち込みたいだろ?」



「ほらこれなら
オマエの大好きな
尻も見えるだろ……♡」

「そうだよ後ろから

ち●ぽ突っ込むんだよ♡」

おはッ♡

クチュ♡

ん♡



「何だよこれエ♥

気持ち良すぎるう♥

「これやぼツ♥

バカになるツ♥

このち●ぽすごツ♥

しゅごいのおおお♥

イクッ

イクッ

イクッ

イクッ

イクッ

イクッ

イクッ
イクッ
イクッ

「イクッ♥

イクイク♥」

「マジイキしちやうううう♥

イクッ

イクッ
イクッ
イクッ



「す…すご♥オマエの
ち●ぽ最高だ…♥」

「気に入ったよ♥
ハメたくなったら
また言えよ…♥」

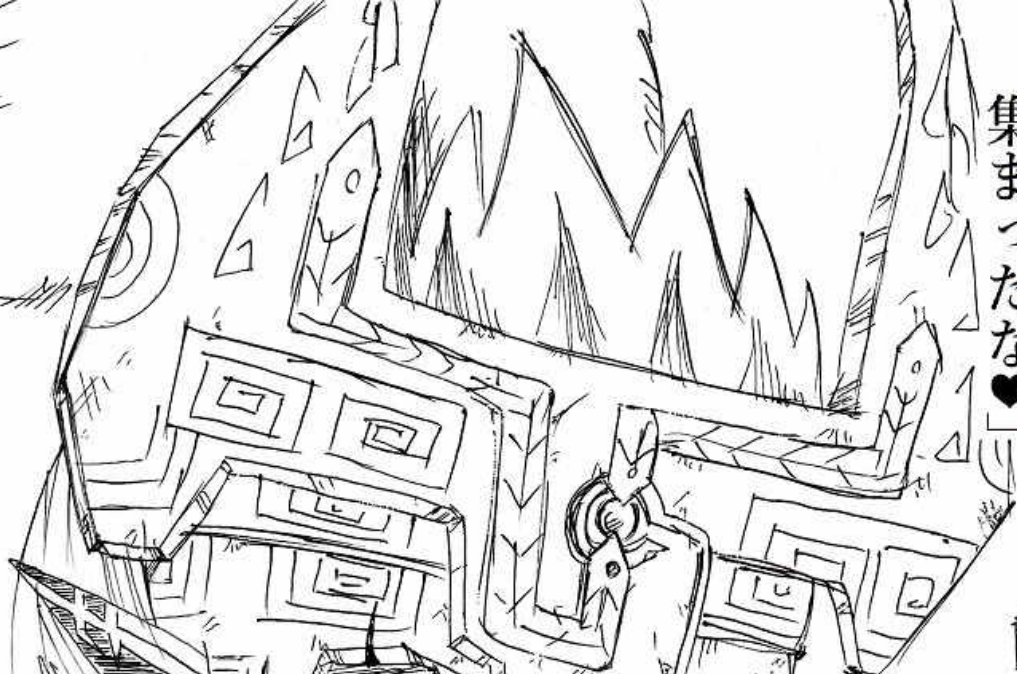
「オマエのち●ぽなら
いつでもおま●こ
させてやるから…♥」



「よしよし

けっこー

集まったな♥



「どいつもこいつも

ち●ぽいきり立たせ

やがって…♥

トキ♥

サス♥

サス♥

サス♥

トキ♥

ゴッ♥

ゴッ♥

キユ♥

「焦らなくても

全員おま●こさせて

やるって♥

「それじゃあ
挨拶代わりに
オマエらの
くっさあい
ち●ほみるくを
ぶっかけて
もらおうかな♡」

「ワタシの顔目掛けて
どっぴゅんしな♡」



ズン♡

「くっせエ♡
すごい量だな…♡」

「人の顔を
便器みたいに
使いやがって…♡」



モワア…♡
ぶはあ♡

コホ♡

「おい 一度にこんな
相手できないって…
んぐツ♥」

（やばいなこれ…♥
全身が性感帯に
なったみたいだ♥）

（今まで味わった事の
ない快感…♥

理性がふつとぶう♥

ち●ぽハメハメする事

しか考えられないよお♥）



「ち●ぽ祭り最高だよお……♡

おち●ぽミルク……もう

お腹いっぱいなのお……♡」

「え……まだおま●こするの？」

ハメハメしたいの？」

ハア♡

ハア♡

ハア♡

ハア♡

「ち●ぽお……♡

ハメち●ぽしゆるう……♡

もつとち●ぽ祭り

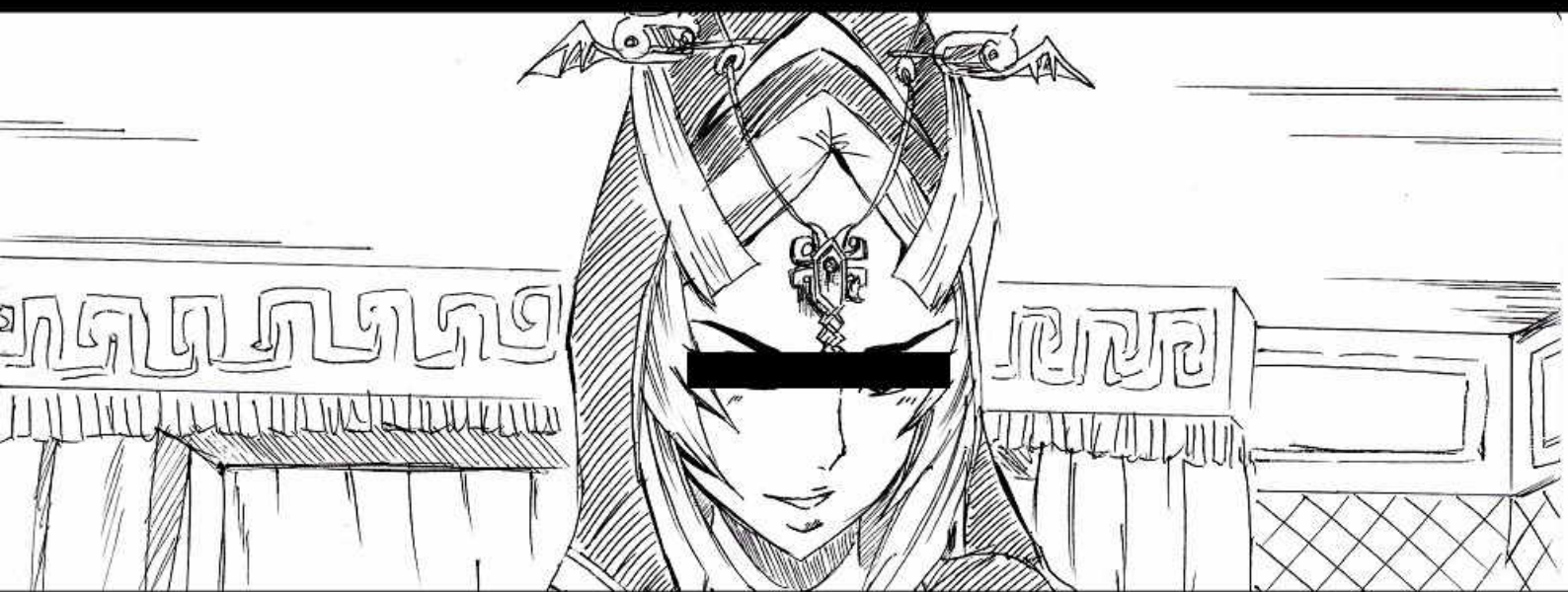
しゆるのお……♡」

ド
ロ
オ……♡

ホタホタ♡

ミ●ナ編完

黄昏の楽園



真のミ●ナ編

「ここがワタシの部屋だ
今日はワタシが満足する
まで帰さないからな…♡」

「ほらミ●ナ様の
ムチムチま●こだぞ♡」

フッフ♡

「さっさとち●ぽおっ立てて

交尾の準備をしろ♡」

フッフ♡

ゴロゴロ♡

ヒラ

ムチムチ♡



「なんだい…」

もうち●ぽ

バツキバキじゃ

ないか…♡」

「ち●ぽは素直が

一番だな♡」

「先に口で

味わってやると

するか…♡」



「どうだ!?

これならお尻も

バッチリ見ながら

ハメられるぞツ♥

ん♡

ん♡

ん♡

ズッポ
ズッポ

ズッポ
ズッポ

「良い眺めだろ♥」

「ああ♥

ダメえ♥」

ん♡

ん♡

ん♡

「上からハメち●ぽ

気持ち良いのお♥

子宮目掛けて一直線に

ち●ぽ突いてくるう♥」

ん♡
はちん♡

はちん♡

ん♡
はちん♡

「熱いの来たあ♥

活きの良い子種汁

どっぴゅん

されちやったのお♥

「子宮の奥まで届いてるう♥
一滴残らず出してえ♥」

アン♥

アッ♥

キエ♥

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡



「おいそんながつつく
んじやないよ…
まあ呼んだのはワタシ
なんだけど♡」

「ちゃんと皆平等に

ハメさせてやるって♡」

ドキ♡

♡おっ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡おっ♡

♡おっ♡

トロ♡

♡なで

♡なで



「ちよ…何だよこれエ
そこは…違うだろツ♥」

「おっぱいにち●ぽ
突っ込むなんて…♥

「発想がヘンタイ
すぎるんだよツ♥」

「ああダメエ♥
こんなヘンタイ
プレイなのに…」

「乳首ほじられて
感じちやっってるう♥」

アツ♥

ズッポ♥

ズッポ♥

アツ♥

ズッポ♥
ズッポ♥

ダメエ♥

オッパイ

ほじらなごん♥

ズッポ♥
ズッポ♥

ズッポ♥

ズッポ♥
ズッポ♥
ズッポ♥



「ばっちりキてるー♥
キンタマに溜まった
くっさいち●ぽ汁…♥」

「腔内発射されちやっただのお♥」

「出してエ♥

皆のくっさいち●ぽ汁…

全部ワタシにちようだあい♥」

ど
お
と
お

「ダメダメ…♥
キまつちやてるう…♥

「マジイキ
ま●こなのお…♥」

真のミ●ナ編 完

黄昏の楽園



ゼ●ダ姫編

「良い格好だな
ゼ●ダ姫…」

「ガ●ンドロフ…」

この様な破廉恥な
格好をさせて楽しむ
だなんて…悪趣味にも
程があります…」

「何を言うか

貴様が全裸を嫌がるから
だろう？せめてもの
情けというものだ」

「忘れるな貴様が逆らえば

兵や民の命はない」

「分かっています…」





んひっ
グイッ



「いいぞなかなか

似合うではないか

豚姫・ゼ●ダよ」

んふっ

くっ

「この様な辱しめ…
耐えられません…」

「何を恥ずかしがる
必要がある？」

「私の姫であるならその姿が
相応しいというものだ」

「こ…この匂いはまさか…」

洗ってないのですか…?」

「ここは女に洗わせると

決めているのでな…」

う…

ツーン…

「鼻に押し付け

ないで下さい…

臭くて敵いません…」



グニ

「ではその口で

奉仕するのだ…」

「そうだいいぞ

素早く思い切り吸い込むんだ

イヤラシイ音もたてるんだぞ」

(皮の間からチンカス

が…臭すぎるわ…

しかし皆を守る為にも

今はこの男に従うしか…)

ぶっ

んっ

んっ

ブッポ

ぶっ

ブッポ

ブッポ

ブッポ



どれ程の月日が経ったのか…
リ●クはおろか未だ誰も
助けには来ない…

抱かれ続けている内に
苦痛は無くなり
私の身体は快感を
感じる様になっていた…



もう戻れない…

もう…この人の
ち●ぽ無しじゃ
生きられない…♡



「ふんようやくお出ましか

勇者よ…だがもう遅い」

「リ●ク助けに来て

くれたのね…でも

ちよっと遅かったわ♡」

「見て分かるでしょ？

私たちが結ばれたの♡

私もうカレに

メロメロなの♡」

やん♡

あは♡

「だからもういいの

私の事は放っておいて

ちようだい♡」

♡♡♡♡♡

又ポ☆♡

「折角だから

そこでカレとの

ラブラブセックス

見ながら1人で

ち●ぽしごいて

くといいわ…♡」

ゼルダ姫編 完

■あとかきのようなもの■

この度は「黄昏の楽園」をお買い上げ頂きありがとうございます。

サークル「にんにん堂」、とんすけです。今回はミ●ナをメインとした作品です。

彼女の初登場作品は発売日に購入し二度ほどクリアしました。が、当時は彼女の魅力に気付きませんでした。。。そんな愚か者の私ですが、最近久しぶりにゲームをしたら彼女にどっぷりハマってしまいました。某無双ゲームでも参戦したりもしてますし、ミ●ナファン歴数か月の新参者ですが、応援しております。

前置きが長くなりましたが、今回の作品はジャンルとしては漫画という括りにしましたが、

基本的には一枚絵での進行という形式になってます(アナログ絵で

描く漫画より楽ですね(笑)たまにこういった形でまた何か描くかも
しれません。興味を持って頂けましたらその時はまた楽しんで
下されば幸いです。



今回出番なしの桃姫様
(女王様Ver)



鼻フックミ●ナさん